

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

9月下旬、松本信用金庫白馬支店と取引のある経営者の皆さんと「大阪・京都」の旅に参加する。鋭い経済論評で世界的に著名な英誌エコノミストの調査

部門が18年版の「世界で最も住みやすい都市」のランキング世界約140都市の中で、ウィーン(オーストリア)、メルボルン(オーストラリア)に次いで、大阪がランクイン。大阪は、調査項目の「安定性」、「医療」、「文化・環境」、「教育」、「インフラ」の全てで高い評価を受けた。大阪には、仕事で幾度となく訪れた私には、高い評価は、「まさか本当」と思ったのも事実だった。

実際の現場を訪れる楽しみの旅でもあった。大阪名所の新世界を散策。新世界は、明治36年に博覧会が開催され、5カ月間で530万人の入場者で大盛況だった。その跡地を明治45年に「大阪の新しい名所」として触れ込みで、パリとニューヨークという欧米を代表する二大都市の風景を模

倣した、テーマパークだ。隆盛から長期低迷で衰退し、一時は治安も悪化し「怖い街」として認知され、街全体の雰囲気も暗く、日中の通行人もまばらな街が、逆に戦後を知らない世代から「昭和の名

残」を感じさせるレトロな街の雰囲気が再評価され現在では、コンパクトで回りやすい街として、外国人も訪れる観光地となっていて大混雑だった。宿泊は、道頓堀・宗喜劇を見ているよう

## 魅力ある観光資源で、多くの産業が潤っている現場を体験する事も大切だ



石長松菊園女将の魅力の賜物かロビーには多くの旅行バックが

り上がる。翌日の出発は、宿から100m離れた大型バス専用の乗降場まで、横断幕や手旗を持って5人が見送りに。「また来てね」の「ノリ」は、吉本新喜劇を見ているような配り。女優の経験を持つ人生から、女将に見込まれ、接客業を厳しく仕込まれたのだから。お客様には、徹底的に尽くすのだとの想いが伝わってくる。幕末維新ミュージアム豊山歴史館の近くで高級ホテルを建設中の現場。交通誘導員に周辺の状況を尋ねる。いやな顔もせず、丁寧に詳しく説明してくれる。旅をして、人が演出する雰囲気に感謝だ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)